

令和6年度第2回大野城市立中学校給食選択制度向上委員会（概要）

1. 日 時 令和6年11月19日（火） 午前10時～午前11時30分

2. 場 所 大野城市役所 本館5階 511会議室

3. 出席者等

（1）出席委員

- ・太宰委員長 ・萩尾副委員長
- ・井上委員 ・梅野委員 ・松本委員
- ・（欠席）渡邊委員 ・（欠席）村田委員

（2）事務局

- ・若山教育部長
- ・教育政策課 光野課長、川口係長、小田原主任管理栄養士、菊地栄養士

（3）傍聴者

1名

4. 議 題

（1）ランチ給食の喫食数等の状況及び喫食割合について

《意見等》

委員長 パンの注文については、どのような推移をしているか。

事務局 パンは12%～9%程度の推移をしている。

委員長 パンの希望はどのように確認したのか

事務局 パンは向上委員会の1年目の時点で議題となった。「パンについてどう思うか」「パンは必要か」という問いを本委員会の専門部会で生徒、保護者に直接質問したという経緯がある。質問したところ、多くの意見が「必要である」の回答だった。主な意見として「手軽に食べられる」「始業式や終業式など午前中に終了する日は、ランチ給食がないので午後部活などがある日にパンの販売があり、助かっている」という意見であった。

（2）令和6年度中学生の食事に関するアンケートの実施について

今回のアンケート案の作成にあたり、様々なご意見をいただき、検討した。

具体的には、「夕食」について追加し3食のアンケートにするという検討もあったが、中学生の「昼食」は、学校生活や食育の教材としての一部であり、必要な改善が求められるものである。また「朝食」は、特に朝食を食べる習慣が、生活リズムや心の健康、学校生活、学力・学習習慣、体力に関係しており、非常に重要だと判断しているため、アンケートを実施している。

「夕食」は、一般的に「朝食」よりも取りやすく、家庭において、様々な態様が考えられるため、アンケートへの追加は見送った。

《意見等》

委員長 前回、他市のアンケート結果と比較ができるような質問の追加を提案したと思うが今回はそのような追加はないのか。

事務局 ご意見をいただき、検討したが、他市の食事のアンケートは基本的に食習慣全般、特に健康増進に関する設問が多く、本市のアンケートは昼食を中心としたアンケート内容になっているため、比較できるような質問があまりなかった。他市では「郷土料理」について質問しているところがあったので、「食文化」についての設問を追加した。

委員長 追加質問の睡眠時間の問いについて、一般的に「就寝時間」→「起床時間」の順になると思う。

事務局 ご意見のとおり修正する。

委員長 「郷土料理」の質問について、作ったことがあるか、作り方を知っているかなどを聞くのはどうだろうか。

副委員長 小学校の授業で「がめ煮（筑前煮）」の作り方を授業で行った際は、授業が終わった後に、家で作ったとの報告をしてくれる子もいた。

事務局 市公式YouTubeに「ぼっかけ」の作り方を公開している。

委員長 小中連携という意味でも、小学校で習ったことを実践しているか聞いてみるのもいいと思う。

事務局 質問に追加する方向で検討する。

副委員長 就寝「時間」とあるが、小学校では「時間」と「時刻」を正しく教えている。この場合は、「時刻」が正確と思う。

事務局 ご意見のとおり修正する。

委員長 睡眠時間は、平日と土日では違いがあると思う。

事務局 平日の睡眠時間を確認したため、そのように修正する。

委員長 ランチ給食制度の内容部分の質問を削除したとのことだが、電子注文事業者はシステム運用について分析ツールを導入していると思う。アンケートとは別に、利用状況（いつ頃注文しているのか、どのように購入しているのか）などを知りたいときは、事業者が分析ツールのアカウントをもし教えてくれれば、事務局で分析をすることができるので、便利である。

井上委員 学校として注文忘れは、課題と考えている。電子注文導入当初は、注文忘れが多かったが、現在はだいぶ減っている。学校から

呼びかけを行う上で、いつごろ注文しているか分かれば有用と考える。

委員長 保護者に注意喚起通知などはしているのか。

事務局 ラインを活用しており、月の注文開始時や献立のチラシの配信のタイミングなどで定期的に配信をしている。

松本委員 主食（ごはん、パン）とコーンフレークはなぜ一緒の選択肢になったのか。

事務局 栄養素の観点から、炭水化物を摂取しているというカテゴリで一緒にした。

松本委員 コーンフレークは甘く砂糖が多く入っているので、ごはんやパンと同じカテゴリにあるところは違和感がある。

事務局 この選択肢について、再度検討したい。

委員長 余談であるが、生活リズムの乱れは成績に影響する。また、生活リズムの乱れのある生徒の食事を確認するとしっかり食事をとれていないということがある。給食の議論とは離れるが、そういったものを把握する意義はあると思う。個人が特定できるのであれば、食習慣と睡眠時間、成績は関連が大いにあると思う。

井上委員 アンケートでは回答者の属性はどこまで聞くのか。

事務局 所属学校、学年、性別は質問している。

井上委員 承知した。

事務局 睡眠時間と食習慣の関連については結果報告の時に分析したい。

委員長 アンケートの結果は実施時期や授業内容などによって変わってくると思うので、学校ごとの取り組みの違いで結果が変わると考えている。また、生徒と保護者の認識の違いをみればよいと思う。

事務局 本アンケートについて、夕食の質問についても盛り込むという意見があり、今回見送ったが、それについてはどうか。

委員長 「コ食（個、孤、子、固）」にからむアンケートであれば夕食について聞く必要があると思う。しかし、本委員会は中学校選択制給食に関する協議の委員会であること、大野城市が行っている事業の成果や改善を目的に実施するアンケートであることを考慮すると夕食についてまではなくてもよいのではないかな。

事務局 今回欠席している村田委員から事前に意見書をいただいているので、報告する。「昼食の欠食に関する質問を保護者、教職員用にも追加してほしい。理由としては、昼食の欠食は生徒では解決できず、周囲の大人が援助する必要があるためである。」

事務局 今回、事務局案として、保護者用アンケートから生徒の喫食頻

度などを削除した。理由としては、保護者は生徒の学校での昼食を確認することはできないため、という理由である。一方教職員については、アンケートに盛り込むことも検討したいと考えている。

委員長 親の回答と子の回答は紐づけできるのか。

事務局 匿名のアンケートであるためできない。

松本委員 保護者のアンケートはお弁当を子どもに持たせているから、お弁当の質問は不要ではないか。

梅野委員 ランチも電子注文であれば、不要ではないか。

事務局 そうなると券売機を利用している生徒の保護者のみが対象となることになる。現在ランチ給食の電子注文の注文率は約90%となっており、券売機の利用は各学校20人～30人程度の利用となっている。

井上委員 パンの券売機はいまだに並んでいる印象はあるが、ランチの券売機は並んでいる印象はあまりない。

事務局 村田委員の意見としては、生徒の昼食欠食の確認の意味合いもあると考えられるが、保護者には学校の昼食を確認することができないので、保護者が答えづらいだろうという判断もある。

井上委員 数年前、昼食を抜いて昼食代をこづかいにするような生徒は確かにいたと思うが、現在は学校として昼食を抜くということを非常に懸念しており各担任も深く注意を払っている。

大利中では、遅れてきた子や忘れてきた子に対しては、事務室で追加注文し、それでも間に合わない場合は、予備食などで対応している。

松本委員 昼食を忘れた場合は、牛乳のみになるのではないか。

梅野委員 昼食を忘れたと学校から連絡があり、お弁当を学校に届けたことがある。

事務局 昼食は学校の生活指導の一部なので、学校の対応は異なっているのが現状である。昼食忘れが多い学校や生徒からの申し出がないときは、個別の対応が難しい場合も考えられる。

井上委員 まずは、生徒、保護者に昼食を忘れないという意識を持ってもらうことが重要である。それでも難しければ対応することになるが、昼食を抜くということがないように中学校は最善の対応をしていると思う。現在、大利中は昼食忘れが日に1人いるかいないかまで減った。

事務局 関連して、村田委員から、昼食忘れがあった場合はランチの予

備食を確実にその生徒に提供してほしいという意見があることを報告する。

事務局 昼食を抜くということがないように学校ごとにやり方は違うが対応をしてもらっている。

委員長 教職員用のアンケートについては、学校として昼食忘れがない状況を作るための努力をしているため、不要ではないか。しかし、一部で発生しているという現実があるのだろう。

委員長 しかし、余剰（余裕）を多くとりすぎるとその状況に甘えるという現実がある。原則は、予備食などの対応は臨時の対応であり、通常対応ではないことを原則とするべきではある。本来昼食忘れは、不注意であり責任は本人が負うべきである。

臨時対応が当たり前になると、事情により対応できないことが不満につながると思う。そこはしっかり説明するべきと考える。

事務局 学校として昼食忘れがない状況を作るための対応はしているので、アンケートに盛り込むかどうか意見を伺いたい。

井上委員 私は校長として、給食時間に教室を回っており、各担任もクラスで深く注意を払っている。教師が状況を把握して、対応しないとは考えにくい。教師として朝の健康観察から昼の昼食、帰りの会など折に触れて、生徒の様子は見守っていく必要がある。（昼食をとっている生徒が）100%とは言い切れないが、100%となるように努力していきたい。

松本委員 生徒のアンケートで他の生徒が昼食をとっていないことを聞くのはどうだろうか

委員長 そこまでする必要はないように感じる。昼食の現状については、現場（学校）で把握できる範囲と思う。

事務局 教育委員会としていろいろな方をお願いしていることになるが、継続的に昼食をとっていない生徒を認識したら、積極的に情報を提供してほしい。また、指導や対応などの必要性があるため、対象生徒の情報を提供してほしいとお願いしている。

委員長 日々の生活で忘れるということはあると思うが、それが繰り返し、繰り返しとなると個別指導や対応が必要と思う。

委員長 教師は日々の学校生活の中で把握しているため、アンケートまで入れる必要はないと思う。

事務局 いただいた意見を受け、一部修正して実施する。

(3) 今後の取り組み状況について

今年度も試食会を実施する。概要は昨年度実施と同様である。

時期は1月～2月の土曜日、対象者は小学6年生の児童とその保護者（1,000人）、場所は各コミュニティセンター。

変更点として、上限の1000名は同じだが、募集状況により、小学校5年生の児童とその保護者も対象としたい。

《意見等》

委員長 試食会は5年生も対象とするとのことだが、1000人を超えた場合はどうなるか

事務局 6年生を優先とし、定員を超えた場合は、抽選等の選出を考えている。昨年度も6年生の世帯であれば、きょうだい児も参加できるようにしていた。今年度はそれに5年生の世帯も参加可能としたい。

委員長 募集の方法はグーグルフォームの仕組みで効率的に募集をかけることができると思う。

事務局 募集の方法については、研究して効果的な方法を探りたい。

5. その他

事務局 次回の向上委員会は来年2月頃を予定している。議題としては、アンケートの結果と、向上委員会が設置後、3年を迎えるため、総括を行いたいと考えている。

《意見等》

なし